

# 山崎中学校だより

令和8年3月25日 修了式特別号号外

町田市立山崎中学校

校長 小平 千佐子

〒195-0074 町田市山崎町1445

TEL 042-793-1021

<https://machida.schoolweb.ne.jp/1320106>

**「修了式特別号」の号外です。**

**紙面に収まり切れなかった内容について、ホームページ上で公開しています！**



「あたりまえ」という奇跡を、未来へつなぐ

副校長 治田 修幸

春の暖かな陽光が心地よい季節となる中、別れと出会いの季節が巡ってきました。令和7年度の教育活動も、いよいよこの最終号をもって締めくくりとなります。

さて、この3月、私たちは大きな節目を迎えました。東日本大震災から15年。あの日から、もう15年もの月日が流れたのです。今の生徒たちのほとんどは、まだ生まれていなかった世代かもしれません。しかし、あの日を経験した者にとって、あの瞬間の記憶は、決して風化することのない、生々しい「昨日のこと」として胸に刻まれています。



2011年3月11日。当時私が勤務していた学校は、午前授業を終え、生徒たちが下校した後の静かな午後の時間を迎えていました。

私は、3階から4階にかけての階段で一人、掃除をしていました。

その時です。突如として、立ってられないほどの激しい揺れが襲ってきました。一瞬、自分自身の「めまい」かと思うほど、視界が歪み、世界が大きく崩れるような感覚に陥りました。軋む校舎、鳴り止まない不気味な音。一人、4階の階段で立ちすくみ、自然の猛威におののいたあの恐怖は、今も肌が覚えています。

職員室に駆け戻り、目に飛び込んできたテレビの映像には、ただ声も出せず立ち尽くしました。町を飲み込んでいく黒い津波。そこにあったはずの生活が一瞬にして消えていく光景を前に、ただ祈ることしかできませんでした。

その日の帰り道。見慣れたはずの街は、文字通り「一変」していました。すべての電気が消え、信号機も街灯も、家の明かりも消え去った街。深い闇に包まれた景色を歩きながら、私は得体の知れない不安に胸を締め付けられました。翌日以降も、福島第一原発の緊迫した報道が続き、心が張り裂けるような思いで画面を見つめていました。

震災直後の卒業式は、今も忘れられません。余震が続き、いつ停電が起きるか分からないという張り詰めた空気の中、卒業生の門出を見守りました。あの時、体育館に響いた歌声や、一つひとつの所作は、平時とは違う切実な重みを帯びていました。あの場にいた全員が、「今、ここにいられること」の意味を、無意識に問いかけていたように思います。

震災を経験した私たちは、痛切に知ることとなりました。「あたりまえの日常は、決してあ

たりまえではない」ということを。

朝起きて家族と挨拶を交わすこと。

学校へ来て、友達と笑い合い、学び合うこと。

夜、温かい食事をして、明かりの下で眠ること。



それらはすべて、幾重もの幸運と、誰かの支えの上に成り立つ「奇跡」のような瞬間です。しかし、人間とは不思議なもので、平和な日々が続くと、その尊さをふとした瞬間に忘れてしまいます。忙しい毎日の中で、友人への言葉が疎かになったり、今ここにある時間を無駄にしまったりすることはないでしょうか。

特に、人と人との出会いは、何物にも代えがたい貴重なものです。

3月は「別れと出会い」の季節です。この1年間、同じ学び舎で過ごした仲間、先生、地域の方々。その一人ひとりとの時間は、実は「一期一会」の連続です。明日も会える、来年も一緒にいられる。そう思えること自体が、実はとても幸せで、そして脆（もろ）い約束の上に成り立っています。

だからこそ、この3月を締めくくるにあたり、皆さんに改めて伝えたいのです。「一期一会」はあたりまえのことではないのだということ。

東日本大震災から15年の節目となる今年、ゆずが歌う震災伝承ソング『幾重（いくえ）』が発表されました。その曲の中に、このような歌詞があります。

### 「幾重に過ぎゆく日々 幾重に未来を拓く」

今日という一日、今日交わした言葉、今日出会った人。その「幾重にも重なる日々」のひとつひとつが、みなさんの未来を切り拓く力になります。

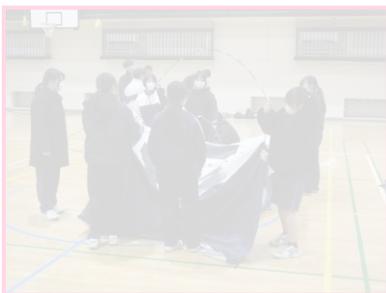
あたりまえだと思っている日々に感謝し、一つひとつの経験を大切に噛み締めてください。この3月を丁寧に締めくくり、感謝の気持ちをもって、新しい4月を迎えてほしいと願っています。

1年の終わり、そして新しい始まり。

みなさんが、自分自身の「あたりまえ」の時間を誰よりも大切にし、力強く一步を踏み出すことを信じています。

## 3月のいろいろ

卒業間際の、3年生の最後の中学校生活の様子をご紹介します。



### 未来の自分と地域を守るために～卒業前特別学習～

卒業を目前に控え、3年生は「命」と「安全」に向き合う2つの貴重な体験をしました。「がん教育」では、専門医から予防法や心身を守る基礎知識を学び、自分や大切な人の未来を真剣に考えました。

また、市の防災課と連携した「防災学習」では、起震車体験や設営訓練を通じ、自助・共助の重要性を体感しました。実技を交えた学びは、災害時に地域で果たすべき役割を再認識する、大変意義深い一日となりました。

## 世界レベルの技を体感!「笑顔と学びの体験プロジェクト」

3月11日(水)、3年生を対象に「走り方講座」を開催しました。元オリンピックの陸上競技選手を講師に迎え、クラスごとに速く走るための正しい姿勢やテクニックを直接伝授していただきました。

「教わったことを習慣にすることが大切」という講師の言葉を胸に、生徒たちは世界レベルの技を真剣な表情で学んでいました。この貴重な体験を日々の活動に活かし、心身ともにさらなる高みを目指してほしいと願っています。



## 学び舎への感謝を込めて～3年生「卒業奉仕活動」

3月16日(月)、卒業を間近に控えた3年生が奉仕活動を行いました。この一年間を過ごした教室を中心に、3年間の感謝を込めて校舎の隅々まで磨き上げました。

普段は手が届かない細かい箇所まで、膝をついて熱心に掃除する姿からは、学び舎への深い愛着が伝わってきました。校舎と共に心も整い、いよいよ晴れやかな門出を迎える準備ができました。母校を美しくして旅立つ3年生の背中に、最上級生としての誇りを感じるひとときとなりました。

## 笑顔と本気が弾けた「お楽しみ会」(3年)

卒業を3日後に控えた3月17日(火)に、3年生が最後のお楽しみ会を開催しました。球技大会やゲームで汗を流した後は、

有志による「ガチ〇〇」コーナー。生徒による圧巻の吹奏楽やダンス、さらには先生方の卓球

や剣道の真剣勝負に、会場は割れんばかりの大歓声に包まれました。何事にも本気で取り組む3年生らしい姿が眩しく、3年間の絆を再確認する最高の思い出となりました。残り少ない中学生生活を、最後まで十分に楽しみつくしていました。



## ☆4月の予定☆

1	水		11	土		21	火	議案書討議 心のアンケート
2	木		12	日		22	水	職員研修会
3	金		13	月	新入生歓迎会 あいさつパ♪(~17日) 給食開始(1年)	23	木	全国学力調査(3年) 一斉委員会 内科検診(2年)
4	土		14	火	クラス写真撮影 一斉委員会 学校公開日(~17日)	24	金	尿検査一次 中央委員会 校外学習(8組)
5	日	春季休業日終	15	水	中教研一斉部会	25	土	
6	月	始業式	16	木	内科検診(3年・8組) 中央委員会	26	日	
7	火	午前授業始 入学式準備	17	金	歯科検診(全) 保護者会(全) 5時間授業	27	月	
8	水	第48回入学式(2年自宅学習)	18	土		28	火	離任式
9	木		19	日		29	水	昭和の日
10	金	給食開始(2・3年) 午前授業終 身体計測(全)	20	月	学校運営協議会	30	木	生徒総会リハーサル